

愛知県教育懇談会(2017年2月16日)

グローバル社会に対応した 児童生徒への英語教育について

学校法人河合塾
前田康宏

1. 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」 (文部科学省、平成28年8月)から見た 外国語教育の方向性

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

外国語教育の抜本的強化のイメージ

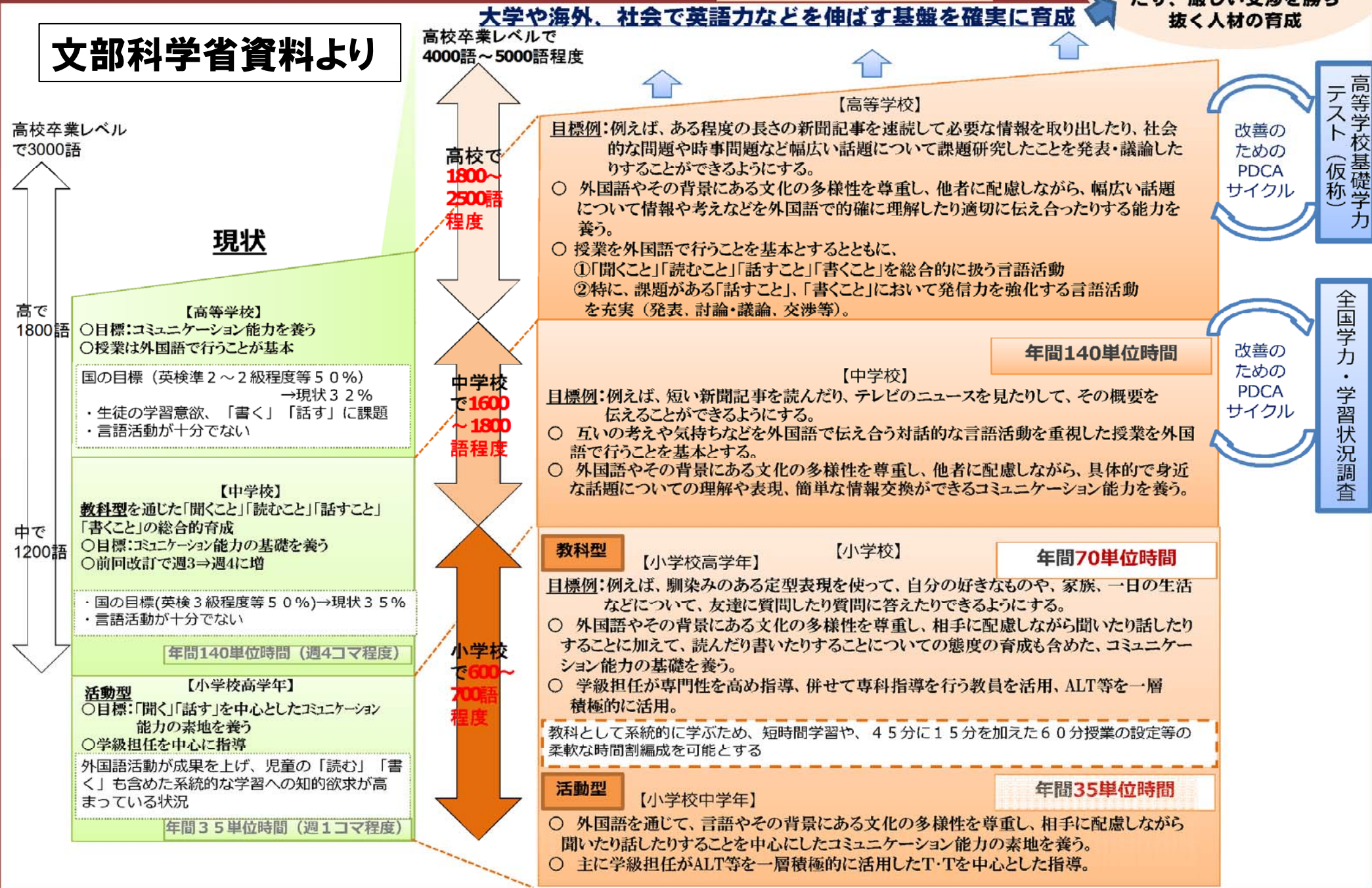
参考資料

新たな外国語教育

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成

大学や海外、社会で英語力などを伸ばす基盤を確実に育成

文部科学省資料より



小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習過程」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成

資質・能力の例

小学校(中学年)

簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

小学校(高学年)

馴染みのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

中学校

○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

高等学校

○日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

思考力・判断力・表現力、主体的・自律的な態度に基づく、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力の育成

指標形式の目標(「話すこと」の例)

小学校(中学年)

(例)
・自分や身の回りのごく限られたことについて、自分の気持ちなどを伝えようとするようにする。

小学校(高学年)

(例)
・身近で簡単なテーマについて、初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。

中学校

(例)
・身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

高等学校

(例)
・身近な話題や知識のある話題について、簡単な外国語を用いて情報や意見を交換し合うことができるようにする。

【見方・考え方】
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

・主体的な学び
・対話的な学び
・深い学びへ

概念的な知識の獲得

思考力・判断力・表現力等の育成

情意・態度の育成

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

【学習過程】

- ① 目的の設定・理解
- ② 目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見通し
- ③ 目的実現のための言語活動(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型)
- ④ まとめと振り返り

※詳細は次ページ参照

次の活動へ

「見方・考え方」の成長・発展

4技能⇒5つの領域へ転換(文部科学省資料より)

CEFR(ヨーロッパの国際的な基準)では、外国語の学習等のための「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やりとり)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」の5つの領域において、知識・技能を活用して思考したり、表現する言語能力が示されている

「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標 (イメージ) たたき台

別添13-3

校種	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
高等学校 262↑ 中学校 ↑ 小学校	B2	<ul style="list-style-type: none"> 母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。 自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。 時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。 知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。 幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができるようにする。 多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。 聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。 時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。 時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。 メール、エッセイ、レポートなどをそれぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。
	B1	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。 社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共の場所(店、駅など)において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。 身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。 身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。 関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。 知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。 関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。 関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。
	A2	<ul style="list-style-type: none"> 短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を読み取ることができるようにする。 身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において身の回りに関する短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。 平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 身近な話題に関する平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。 身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。 身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。 身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。 聞いたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。
	A1	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において身の回りに関する英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。 身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の発言を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。 相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。 ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。
	(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかわかるようにする。 挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事柄を表わすごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。 音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事柄を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。 相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など)があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。 自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を持ってアルファベットの次文字と小文字を活字体で書くことができるようにする。 例文を参考にしながら、音声などで十分に慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。

複数の力を統合的に扱う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会 (Council of Europe) が発表。

次期学習指導要領の小学校3年生の年間指導計画イメージ (文部科学省資料より)

題材	単元目標例
言語・挨拶	世界には様々な言語があることに気付くとともに、英語での挨拶の表現に慣れ親しみ、自分の名前を言って挨拶しようとする。
ジェスチャー 感情・様子	世界には様々なジェスチャーがあることに気付くとともに、感情や状態を表す語や表現に慣れ親しみ、表情やジェスチャーをつけて挨拶とともに、相手に感情や状態を伝えようとする。
数・身の回りの物	言語には、それぞれ特色があることを知るとともに、数の言い方や尋ね方に慣れ親しみ、身の回りのものを数えようとする。
色	英語と日本語の音の違いや、色について様々な見方があることに気付くとともに、好きなものを表したり、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、好きなものを尋ねたり答えたりする。
動物<絵本 教材活用>	カタカナで表す動物とその英語との音の違いに気付き、まとまりのある英語での話を聞いてその大筋がわかり、動物や体の部位等を表す語に慣れ親しみ、選んだ動物を紹介する。
外来語・食べ物	食べ物や色などの言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、積極的に何が好きなのかを尋ねたり、答えたりしようとする。
アルファベット 大文字	身の回りにはアルファベットで表されているものが多いことに気付くとともに、アルファベットの読み方や、何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
身の回りの物	身の回りの物に関する外来語とその英語から、日本語と英語の音の違いに気付き、どのようなものが欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
動物・形状・ 様子を表す	動物や形状・様子を表す語に慣れ親しみ、あるものを説明したり、相手意識を持ってある物について尋ねたり答えたりしようとする。

次期学習指導要領の小学校6年生の年間指導計画イメージ (文部科学省資料より)

題材	単元目標例
挨拶 自己紹介	世界には様々な挨拶の仕方があることに気付くとともに、簡単なやりとりをして自分について伝え合ったり、自分の名前を正確に書いたりする事が出来るようになる。
教室名 気持ち表現	世界の子供たちの生活から自分たちとの共通点や相違点に気付くとともに、自分の学校や学校に対する考えについて簡単に説明したり、学校名を正確に書くことができるようになる。
世界の国々 生活	世界の国々の様子から日本との共通点や相違点に気付き、行ってみたい国やお薦めの国についてその理由とともに簡単に説明したり、国名を正確に書き写したりできるようにする。
日本の特徴	日本の様子から世界の国々との共通点や相違点に気付き、日本について伝えることができるようになる。日本の良さについて自分の考えを相手に分かるように伝え合おうとする。
一日の生活 時刻	世界の人々は様々な生活の中で精一杯生活を営んでいること、時差があること、英語と日本との表記の違いに気付き、自分の一日の生活や大切にしている時間を伝え合おうとする。
動物	世界の様々な課題についてまとまった内容の話を聞いて理解し、自分のできることを伝え合うことができるようになる。単語を推測して読んだりしようとする。
学校生活	世界の学校生活の様子から日本との相違点や共通点に気付き、6年間の小学校生活に関する自分の考えや、思い出に残る行事について理由とともに伝え合ったりすることができる。
職業、気持ち を表す語	世界には様々な夢をもつ同年代の子供たちがいることに気付き、つきたい職業や自分の将来について伝えあったりすることができる。
中学校生活	中学校生活についてのまとまった話を理解し、自分の考えを表現したり、中学校生活の期待について簡単なスピーチをすることができるようになる。

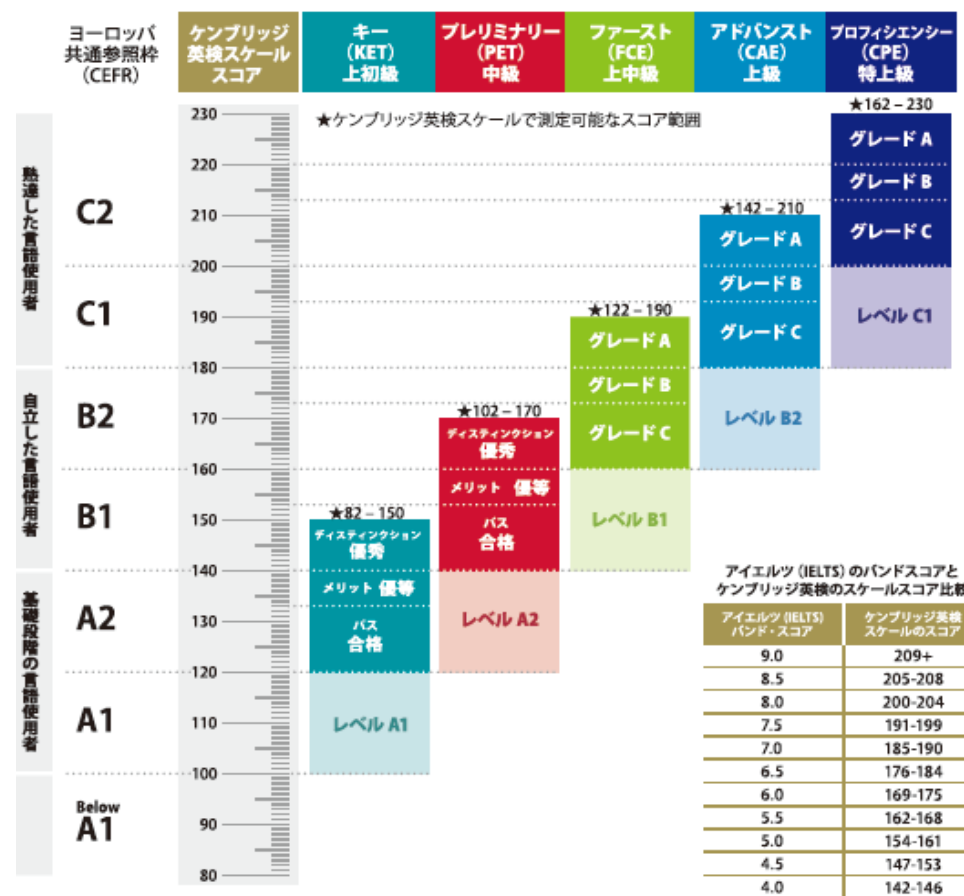
2.英語教育における河合塾の取り組み

英語4技能の育成と評価

河合塾では「小学生から高校生まであらゆる段階・レベルの学習者に対し国際的な学力指標により4技能を性格に測定できる国際的なツールを導入し育成する」「国際的に通用する英語教授スキルを備えた教員・指導者の育成・支援を行う」ことをねらいにケンブリッジ英検試験センターとして様々な施策を行っている。

<ケンブリッジ英検の優位性>

- ①CEFRに完全準拠しており、世界130カ国・年間250万人が受験する国際標準の試験であること。
- ②小・中学生向けのYLE（ヤングラーナーズ）から高校生、大学生向けまで各レベルの試験と、初級から中・上級まで一貫した評価スケールがあること。
- ③日本の学習指導要領と高い親和性があり、出題内容は教育的配慮がされているため、生徒の日々の英語学習の成果を測定するのに有効な試験であること。
- ④スピーキングテストでは受験者2名をペアにした対面式面接を行うなど、コミュニケーション力を適正に評価する試験であること。



英語4技能の育成と評価

生徒対象

- (1) 高校生向け公開試験の実施 (KET、PET、FCE)
 小学校英語教科化を見据えた小・中学生向け公開試験の実施 (YLE ヤングラーナーズ)
 : 年4回/3地区実施 (2016年度)
- (2) 高校向け団体一括試験の実施: SGH高校などで実施 (2016年度)
- (3) 英語4技能CBT「リングスキル」試行実施
 : 全国6会場実施 (隠岐、小笠原など3離島での実施含む)

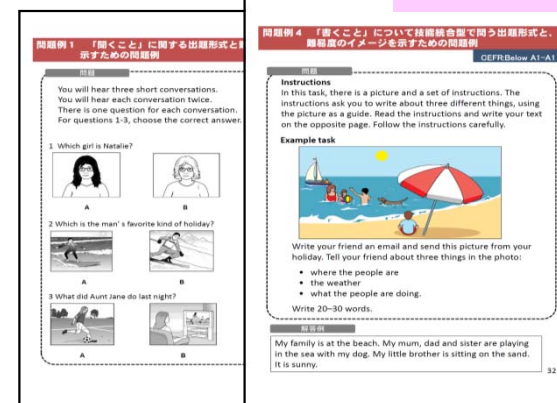
分析・教材作成

- (4) 英語4技能学習をサポートする受験者向け河合塾オリジナル教材作成
 : 「英語4技能 学習の手引き」「受験の手引き」
- (5) 出題内容の分析 (学習指導要領との関係、大学入試試験との比較・分析)

高等学校基礎学力テスト
 問題作成イメージの例等
 ~ケンブリッジ大学英語
 検定機構が受託
 (高大接続システム会議
 配布資料より)



受験の前後に配布する
 河合塾オリジナルの
 学習教材



教員・指導者対象

- (6) 英語教員向けTKT (英語教授知識認定テスト) 実施
 : 東京都教育委員会「海外派遣研修」事前・事後検定の実施 (2014年から継続中)

英語教員向けTKT(英語教授知識認定テスト)

TKT (Teaching Knowledge Test/英語教授知識認定テスト) は、英語科教員に求められる言語・教授法の基礎知識を網羅した、英国ケンブリッジ大学英語検定機構が開発した知識認定テスト。

TKTは、モジュール 1・2・3で構成されており。いずれかのモジュールを単独で受験することもできる。

●英語教授の知識(Module 1)

テスト内容:優れた指導テクニックに必要な知識、学習者の習得過程、言語に関する理解など

Language and background to language learning and teaching

– *Describing language and language skills*

– *Background to language learning*

– *Background to language teaching*

●授業プランニング(Module 2)

テスト内容:授業プランニングに必要な教員の知識やスキル、評価や教材等について

Lesson planning and use of resources for language teaching

– *Planning and preparing a lesson or sequence of lessons*

– *Selection and use of resources*

●授業マネジメント(Module 3)

テスト内容:英語授業をする際に教師として留意すべき授業マネジメントに関する知識について

Managing the teaching and learning process

– *Teachers' and learners' language in the classroom*

– *Classroom management*

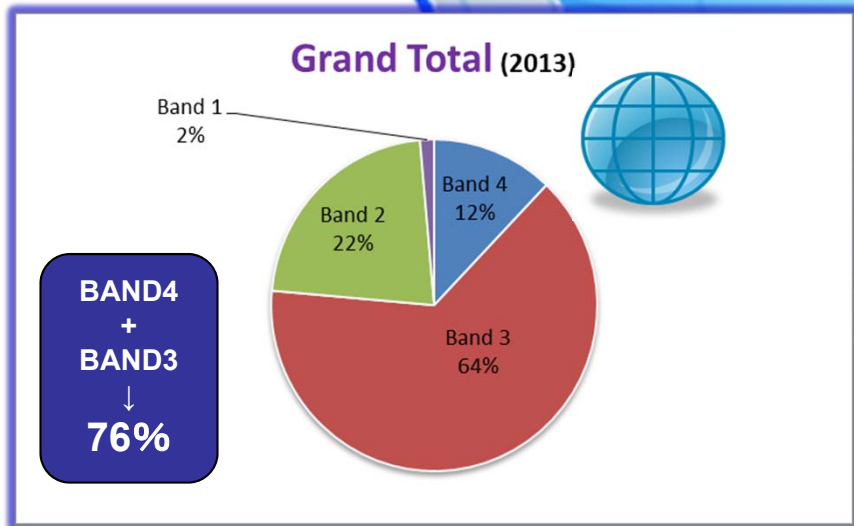
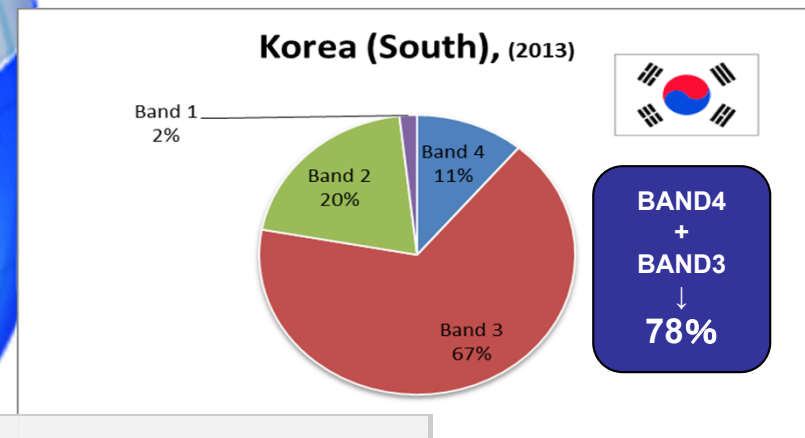
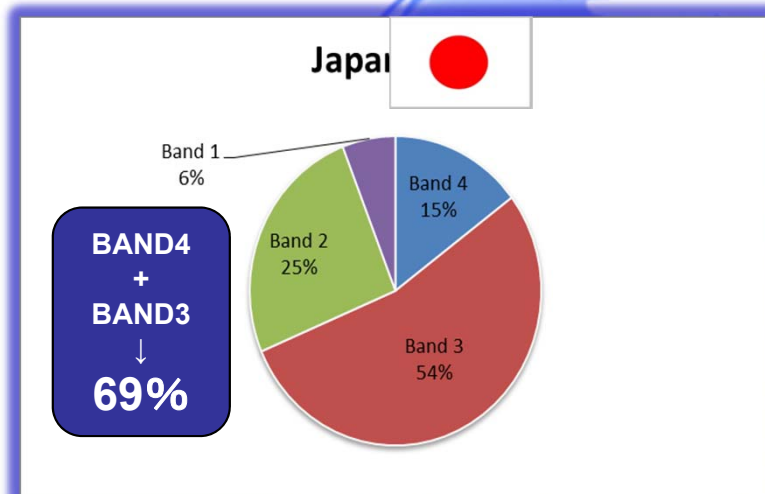
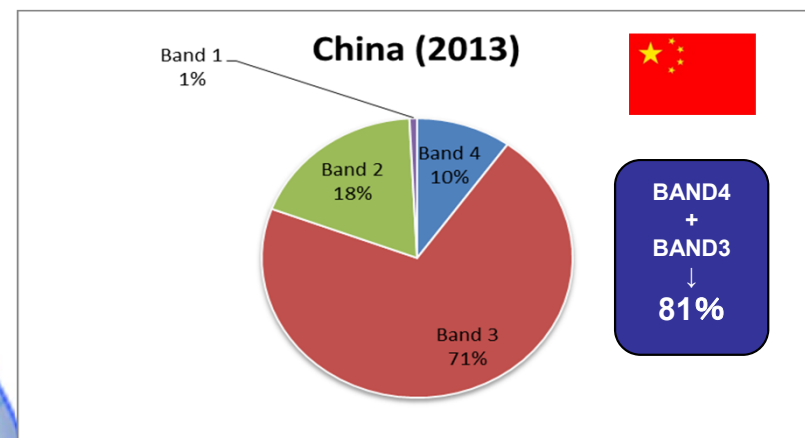
英語教員向けTKT(英語教授知識認定テスト)の試験内容 河合塾

タスク	Module 1(英語教授の知識)		Module 2(授業プランニング)		Module 3(授業マネジメント)	
	問	設問内容	問	設問内容	問	設問内容
1	1~5	文法用語の知識 ①	1~7	教育方法とその狙い	1~7	教師の発言の機能
2	6~10	文法用語の知識 ②	8~14	学習課題の狙い	8~16	教室での発言の分類
3	11~16	文法・発音などに関する用語の知識	15~20	教室での活動の狙い	17~21	教師が行う指示
4	17~21	発話の機能	21~29	授業計画 ①	22~27	教室で第1言語を使用する目的
5	22~29	発音	30~36	授業計画 ②	28~32	学習者の発言の機能・目的
6	30~35	ライティングのステップに関する知識	37~41	テストの目的	33~40	学習者がおかす文法ミスの種類
7	36~40	言語技能に関する用語の知識	42~49	リソースの活用	41~49	教師の役割
8	41~46	学習者の特性の判断	50~56	辞書の活用	50~55	グループワーク, ペアワークの特徴
9	47~53	学習者が行う実践の理解	57~64	リソースの種類と活用	56~63	グループワーク, ペアワークで起こりうる問題点
10	54~59	教育アプローチに関する概念の理解	65~72	テキストの活用	64~70	教室での状況への対処
11	60~66	教室での活動の種類に関する概念の理解	73~80	リソースの種類と特性	71~75	学習者の誤りを訂正する方法
12	67~73	テストの種類についての知識			76~80	教師が行うフィードバックの狙い
13	74~80	文法用語の知識				

テスト結果 各モジュール 4段階の評価	BAND 4	Very good standard in most of the criteria	高
	BAND 3	Good standard in most of the criteria	↑
	BAND 2	Satisfactory level in some of the criteria	
	BAND 1	Basic standard in some of the criteria	

TKT(英語教授知識認定テスト)国別比較

テスト結果 各モジュール 4段階の評価	BAND 4	高	comprehensive, accurate, extensive, the full range of
	BAND 3	↑	generally, most of
	BAND 2	↓	basic, some of
	BAND 1	低	restricted, a limited range of



Country	Bands			
	Band 4	Band 3	Band 2	Band 1
Estonia	61.90%	38.10%	0.00%	0.00%
Switzerland	60.00%	40.00%	0.00%	0.00%
Croatia	38.10%	57.10%	4.80%	0.00%
Germany	36.70%	62.90%	0.40%	0.00%
Greece	36.50%	55.80%	5.80%	1.90%
Spain	34.40%	60.50%	4.60%	0.50%
Russia	33.80%	57.60%	8.30%	0.40%
Czech Republic	33.70%	58.40%	7.90%	0.00%
Italy	31.20%	55.80%	12.30%	0.80%
Serbia	29.40%	70.60%	0.00%	0.00%

BAND4割合
上位10カ国

スピーキング対策への取り組み

高1・2生 対象 **スペシャルイベント第2弾!!** ★ 30名限定先着順 ★

TEAPやTOEFL®などの資格・検定試験の対策をはじめよう!

「スピーキング」スタート講座

～英語表現力を磨く～

本講座は、英語4技能(聞く・話す・読む・書く)の中でも「スピーキング(話す)」に特化した、「体験型・実践型」の講座です。英語の表現力を磨くには、書いたり発話したり能動的な学習が必要です。河合塾では、TEAPやTOEFL®といった資格・検定試験のスピーキングテストの出題形式や内容を徹底分析しています。今回の講座では、スピーキング力を向上させるためのトレーニングに取り組み、代表的な形式のテストにもチャレンジします。

こんな方におすすめの講座です!

- ✓ 大学入試でも導入される資格・検定試験 (TEAP・TOEFL® などの) 対策を知りたい方
- ✓ これから本格的にスピーキング対策を始めたい方
- ✓ CBT形式のテストを体験したい方
※CBT: Computer-Based Testing
- ✓ 大学入学後や社会に出てからも英語を活用したいと考えている方

入試で英語4技能が重要!

いま、日本の英語教育では「英語4技能をバランスよく育て、英語でコミュニケーションができる力を育てる」ことが求められています。大学入試改革においても「4技能重視」が明確に打ち出され、大きな変化が始まっています。上智大学や立教大学では、資格・検定試験を活用した入試が導入され、早稲田大学(文学部・文化構想学部)でも、2017年度入試から導入されます。

前回受講者の声

- 話すためには理解が必要で、そのためには英文法・単語などの総合力が必要だということが分かった。
- 最初は緊張したが、慣れてくると楽しかった。
- 今日学んだことを、英語2級のスピーキングで活かしたい。

講座内容

講義
スピーキング問題の攻略法を解説する講義です。練習問題にも取り組んで、出題形式に慣れます。

スピーキングテスト[CBT]
発話をコンピュータに録音するシステムを使い、講義で学んだ内容・技能をテストで力試します。

テストの解説
スピーキングテストのポイントをすぐに確認します。

後日返却
テスト結果のフィードバック

スピーキングテストの結果は、ネイティブ講師も含めた複数講師による評価を行い、後日受講生の皆さんに返却します!

- 1人1台パソコンを使って録音します。
- テストはこのイベントのための河合塾オリジナル教材です。
- 機材はすべて河合塾が用意します。

★ 2016年6月実施同イベント第1弾と同一内容です。

河合塾

＜スピーキングCBTを受験した生徒の感想＞

- ・ 自分的にはもっと気をつけながら発音したかった。
- ・ 図を見て、答える、文を見て要約する、聞いて意見を述べるができなかった。
- ・ 難しかった。対面の方が話しやすいと思った。
- ・ 問題文の表示が分かりにくかったです。
- ・ 周りの人の声が思ったほど聞こえたので、よく話せる人と自分を比べてあせってしまったことを反省しています。
- ・ グラフを説明する問題で、どこに注目すればいいのか分からなくなってしまった。
- ・ 上手く文章をまとめられなかった。
- ・ あせってしまった。

イベントで実施したスピーキングCBTの様子



スピーキング対策への取り組み

問題サンプル

PART2

The figure shows the changes in the numbers of automobiles sold in Japan and China. Describe the information shown in the figure in English. You will have one (1) minute to prepare your description.

画面に表示された図は日本と中国の自動車販売数の推移を示したものです。この図に示された情報を英語で説明してください。準備時間は1分です。

The numbers of automobiles sold in Japan and China

河合塾スピーキングテストの概要

PART1	音読
PART2	図表説明
PART3	要約
PART4	意見陳述

河合塾が実施している全統模試での英語の偏差値が60以上の受験者であっても、スピーキングCBTの結果から、語彙の発音・アクセントや文法といった基本的なところの練習が必要だと考えられる。

スピーキングCBTの受験者に返却する「SCORE SHEET」見本

Speaking Test SCORE SHEET 河合塾

名前: _____ あなたのグレード: **C+** あなたのグレードの評価 (詳しくは受験要領)

発表評価: **C+** = 発表評価 × パート得点

コミュニケーションが成立するスピーキング能力を有していますが、大いに改善の余地があります。

パート別得点率	スキル評価	学習アドバイス
PART1 音読 63%	<ul style="list-style-type: none"> ★ 区切れの適切さ ★ 文強勢の正しさ ★ 表情の豊かさ ★ 情報の正確さと詳しさ 	音のつながりや感情表現はおおむね自然です。一方、内容理解が十分でなく文強勢が不自然なところがあります。
PART2 図表説明 70%	<ul style="list-style-type: none"> □ 情報を対比的に述べている □ 具体的な数値を用いている □ 差や傾向などを表現できている ★ つなぎ表現や指示表現の適切さ ★ 語彙の適切さと文法の正しさ ★ 要約としての正しさと適切さ 	グラフの内容を対比的に具体的な数値を用いて述べられています。「増減」を表す表現をさらにスムーズに使えるよう練習すると良いでしょう。decreaseなどの表現にも正確な使い方がみられます。正しい発音を心がけてください。
PART3 要約 50%	<ul style="list-style-type: none"> □ 結論を含んでいる □ 結論以外の重要な情報を含む □ 表現の言い換えが十分である ★ つなぎ表現や指示表現の適切さ ★ 語彙の適切さと文法の正しさ ★ 意見の明確さと論理の適切さ 	結論から述べようとした点は評価されません。また、anger is not...と否定形で述べるのではなく、肯定形で述べましょう。また、For exampleというつなぎ表現、要約には不適切です。また、何が結論であったのかを考え、そこに向けて解答をまとめていく意識を持つと良いでしょう。
PART4 意見陳述 40%	<ul style="list-style-type: none"> ★ 意見の明確さと論理の適切さ □ 意見が明確に述べられている □ 意見の論拠が提示されている ★ つなぎ表現や指示表現の適切さ ★ 語彙の適切さと文法の正しさ 	In my opinion...を用いた意見を明確に述べようとしたが、語の発音や、文法的なミスが多く内容をうまく伝えられていません。The shield... becomes...などの形にテンプレートに表すと良いでしょう。

発音評価: ○ 発音アドバイス: 英語らしい発音を中心にして、発音のつながり、アクセント、イントネーション、発音の正確さを評価しますが、個々の発音が正確で内容に関連した発音が多すぎることがあります。

スキル評価の目安: ★★ 大変よくできています。 ★★- あともう少しです。 ★★- あともう少しです。 ★★- がんばりましょう。

Speaking Test のねらい

本テストは、大学などのアカデミックな環境で求められる英語のスピーキング能力を多面的に測定するものです。測定は主に「発音の正しさ」、「内容の適切さ」、「文法の正確さ」という観点から行われます。「課題をじっくりと理解し、適切な発音やイントネーションで読み取ることができ、かつ、内容を正確に理解する」ということが求められます。

Part 1 (音読) では、発音の正確さや文法の正しさについての理解を、適切な発音やイントネーションで読み取ることが求められます。Part 2 (図表説明) では、数値や変化を含む情報や傾向を正確に読み取る能力が求められます。Part 3 (要約) では、読取った内容を正しくとらえ、それを自分の言葉で正しく説明する能力が求められます。Part 4 (意見陳述) では、ある問題に対する意見を明確とらえて説明する能力が求められます。

評価の説明

グレード	グレード別のスピーキング力
S	極めて高いスピーキング能力を有しています。効果的なコミュニケーションが期待されます。与えられた情報を正しく理解し、正確に相手に伝えることができます。また、自分の意見を、十分な根拠とともに相手に伝えることができます。聞き手は、あなたの話す英語を容易に理解するでしょう。さらに高度なスピーキングスキルを習得しましょう。
A	とても高いスピーキング能力を有しています。適切なコミュニケーションが期待されます。与えられた情報を正しく理解し、正確に相手に伝えることができます。また、自分の意見を、十分な根拠とともに相手に伝えることができます。聞き手は、あなたの話す英語を理解するのに、多少のストレスを感じるかもしれませんが、発音や文法の正確さを認め、スキルの上を目指しましょう。
B	十分に高いスピーキング能力を有しています。コミュニケーションが十分に成立するでしょう。与えられた情報を正しく理解し、ある程度相手に伝えることができます。また、自分の意見を、十分な根拠を伴って伝えることができます。聞き手は、あなたの話す英語を理解するのに、かなりのストレスを感じるでしょう。発音や文法の正確さを認め、スキルの上を目指しましょう。
C	コミュニケーションが成立するスピーキング能力を有していますが、大いに改善の余地があります。与えられた情報を理解し、ある程度相手に伝えることができますが、情報の正確さが不足しています。また、自分の意見を伝える際に論拠が欠け、十分な根拠がありません。聞き手は、あなたの話す英語を理解するのに、かなりのストレスを感じるでしょう。発音や文法の正確さを認め、今後大いに練習が必要です。
D	なんとかコミュニケーションが成立するスピーキング能力を有していますが、大いに改善の余地があります。与えられた情報をある程度相手に伝えることができますが、情報の正確さが不足しています。また、自分の意見を伝える際に論拠が欠け、十分な根拠がありません。聞き手は、あなたの話す英語を理解するのに、かなりのストレスを感じるでしょう。発音や文法の正確さを認め、今後大いに練習が必要です。
E	コミュニケーションが成立しないスピーキング能力を有していません。与えられた情報を相手に伝えることができません。また、自分の意見を伝えることができません。聞き手は、あなたの話す英語を理解することができません。発音や文法の正確さを認め、今後大いに練習が必要です。

グレードC+ (プラス) 高いがある場合は、もう少しでグレードアップが可能です。学習アドバイスを参考に練習を積み重ねましょう。

発音評価: ○ 発音アドバイス: 発音のつながりやイントネーションに特に注意を払ってください。また、発音のつながりやイントネーションに特に注意を払ってください。また、発音のつながりやイントネーションに特に注意を払ってください。

英語資格・検定試験対策講座の展開

●2016年度夏期講習 「TEAP利用型入試対策英語」

ハイスコア達成のための対策講座

上智大学をはじめ、入試にTEAPスコアを活用する大学・学部がますます増えています。本講座はTEAPの「書く」「話す」「読む」「聞く」の4パートについて、出題傾向を伝授するとともに、実際に話す機会も設けながら、各々の目標達成のための具体的な対策指導を行います。

*授業で扱う音源を収録したCDを配付します。

●2016年度冬期講習 「TEAP利用型入試チャレンジ英語」

TEAPの概要を効率よく知る体験型入門講座

上智大学など、入試にTEAPを活用する大学・学部が増えています。本講座ではTEAP受験希望の高1・2生を対象に、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの4つの試験分野について、公開見本問題などを使用しながら概要を解説し、どのような対策を行えばよいかを伝授します。今後の学習の指針となる入門講座です。

*高1・2生共通 *授業で扱う音源を収録したCDを配付します。

●2016年度冬期講習 「TOEFL®対策スタート講座」

TOEFL iBT®受験を考えている方に最適のスタート講座

大学受験にTOEFL®のスコアを利用したい、また、将来の留学や就職を見据えて受験を考えている方のための講座です。TOEFL iBT®で問われるリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングについて、どのような問題に取り組み、対策を行えばよいかの指針を示します。

*高1・2・3・卒生共通

授業の
流れ

第1講 ガイダンス

TOEFL iBT®の特徴や4技能の各試験でどのような問題が出されるか、必要となる力についてガイダンスを行います。

協力：日米英語学院(河合塾グループ)

第2講 第3講 第4講 第5講

Reading Writing Listening Speaking TOEFL iBT®の4技能の試験についての解説と対策のポイントを、1回90分ずつ4回に分けて伝授し、今後の指針を示します。

英語4技能指導のポイント

英語4技能をバランスよく向上させるための指導のポイント：

Reading :

- ・語い力を伸ばす
- ・英文法のトレーニングを怠らない
- ・英文同士の論理関係を意識し、パラグラフのテーマを読み取る
- ・音読の習慣化
- ・日頃の英語の授業などから問題の解き方を学び、自分に合ったやり方を身につける

Writing :

- ・使える語いを増やす
「英作文で使うことを意識して覚える」
- ・英作文で使える形に整えられた英文を覚える
- ・英語と日本語の違いを意識する
- ・自由英作文では、論理的で説得力のある内容を書けるようにトレーニングする

Listening :

- ・表現の言い換え、指示語の理解、数字の聴き取りに注意する
- ・最後まで丁寧に聴く
- ・普段の学習に是非dictation（ディクテーション）を取り入れる
- ・CDから聞こえてくる発話をほぼ同時に声に出して再生してみる

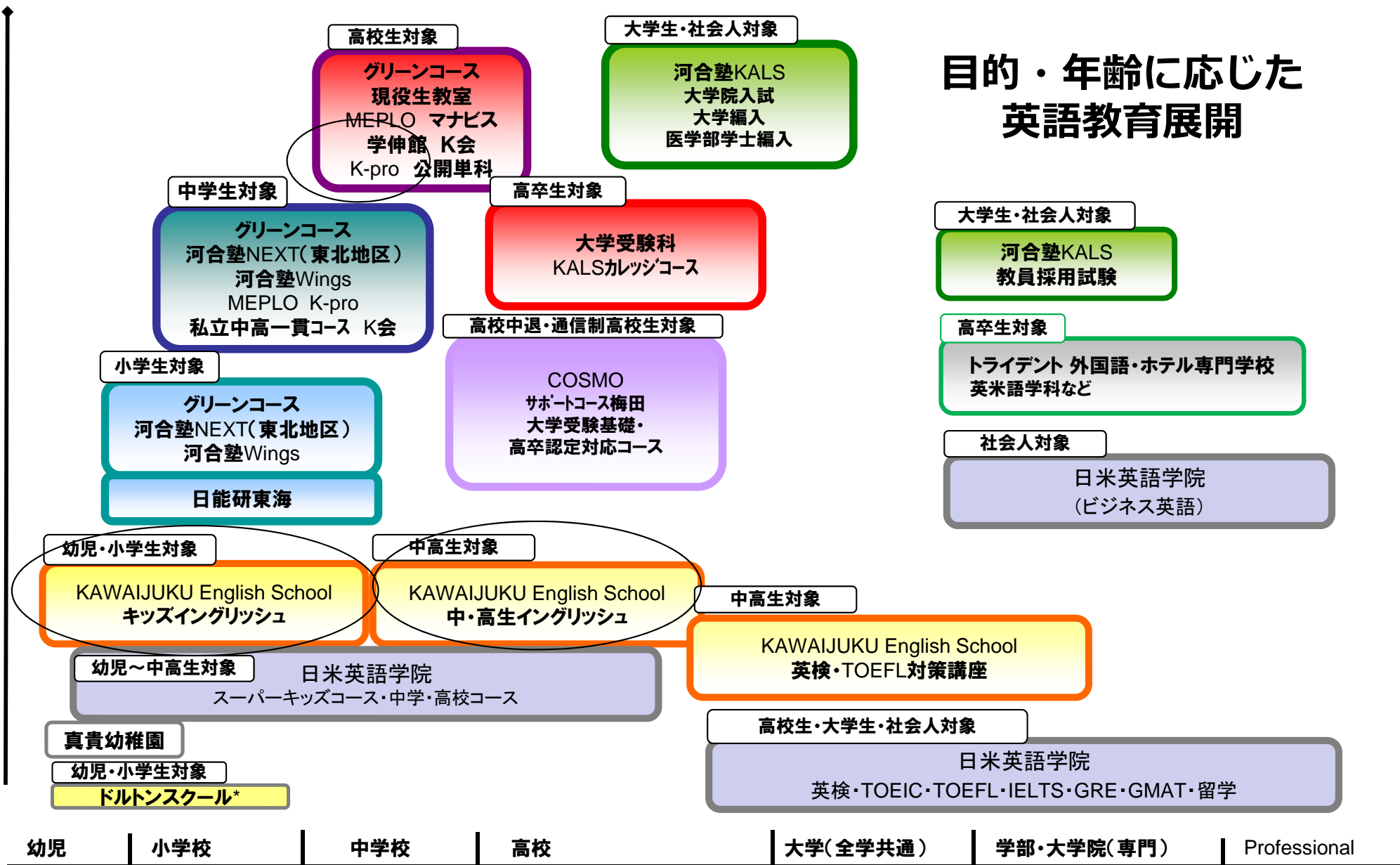
Speaking :

- ・英語を声に出して話すことの練習をする
ex. 文法問題の完成した文を読んでみる
長文の復習では音読を行う
- ・日常生活に関する話題を中心に、適切な受け答えができるようにする
- ・目の前のことがらを英語で説明できるようにする

etc..

河合塾グループの英語教育領域

目的・年齢に応じた 英語教育展開



キッズイングリッシュ(2歳児～小6までの英語学習)の特徴

●ドリルではなくコミュニケーション中心

英文を聞いて繰り返すドリル中心の指導法は多用しないで、英語によるコミュニケーション体験を通して子どもたちが考える力を養い、無理なく、自然に言葉を吸収するように指導。

●外国人講師、日本人講師の特質を生かした指導

外国人講師とのコミュニケーションを通して自然な表現力が学べる。さらに、子どもたちの気持ちや意思を十分に理解できる日本人講師がサポートするために安心である。

外国人、日本人講師ともにレッスンは100%英語で行う。

●子どもの興味、知的発達段階に応じた指導

体を動かしたり、音楽や算数、理科的要素や社会的要素等を取り入れ、発展的な英語学習を実践。バランスよく、多面的に能力を引き出す。

●楽しく、引き込まれるレッスン

各月ごとのテーマ、アクティビティを通し、楽しみながら、語彙や基本表現を習得できる。10月はハロウィン、12月はクリスマスなど季節ごとに異文化にふれるレッスンも楽しめる。

●絵本によるアプローチ

絵本は、絵や話の背景から、無理なく英語を理解でき、文字を読む力、英語のリズム、語彙の習得にもつながる。

- ①子供は日本語にない発音・イントネーション・リズムを抵抗なく自然に習得できる能力がある。
- ②子供は英語を日本語に訳すことなく英語で理解し、大意をつかむことができる。
- ③子供は純粋に“英語は楽しい”と感じ、大量の情報をインプットできる力がある。

キッズイングリッシュ・2時間コース(2歳児～年長／週1回)

自由遊び、サークルタイム（歌やアクティビティなどを通して基本的な単語や表現を学習）、月別テーマに関する学習の時間という流れの中で、生活に必要な英語表現を自然に吸収していく。

2時間コースの特色：子供たちに、日常的テーマに積極的にチャレンジさせる。

<理科的要素のアクティビティ例>

- ◇スライム作り
- ◇野菜・果物の種を見て、どの野菜・果物かを考える
- ◇折り紙で作ったボートを水に浮かべ、その上に何個ビー玉を置けるか推測する。
- ◇生クリームに塩を入れてバターを作る。
- ◇牛乳と砂糖を入れたビニールを氷と塩の入った缶に入れて、それを振ってアイスクリーム作り
- ◇自然観察

<社会的要素のアクティビティ例>

- ◇交通調査
- ◇自分の理想の街づくり
- ◇職業と使う道具のマッチング
- ◇自分に手紙を書いて、それを郵便局に出しに行く。
- ◇動物の住んでいる地域の仕分け。

次期学習指導要領の重要ポイント：「アクティブラーニング」「主体的・対話的深い学び」

中高生イングリッシュの特徴

●外国人講師と日本人講師が1時間ずつ担当

日本人講師からは学校の授業にも役立つ文法・語句を、外国人講師からは覚えた文法を生かした英語を実践的に学ぶ。リスニング・コミュニケーション能力アップに効果的。

●日本人講師による担任制

経験豊かな日本人講師陣が、学習、進学相談に関して、バックアップ体制をとっている。

●レベル別少人数クラス

●英検に対応

英検対策として、過去問題の傾向を分析した教材を使い、丁寧に指導。

●多読の習慣をサポート

英語力がつくように多読の環境を用意。さまざまなジャンルの中から、レベルにあった本をたくさん読むことで、素早く内容を把握するスキルを鍛え、長文読解力を身につける。

●異文化理解

ハロウィンやクリスマス等の外国の行事に触れ、異文化理解を深める。

「K-pro」コースの特色と指導方針

(1) コンセプト

主体的な学びの中で、学問の面白さを追及する。トップレベル生のためのコース。
対象：中学1年生～高校2年生の無学年制。

(2) 特色

- ①理数・英語の専攻があり、大学入試にとらわれない本質的で高度な学力をつけることを目指す。
- ②各科目超トップ生が集い、学問を自由にかつ存分に語ることもできる場を提供。
- ③中学生・高校生を対象として、学年の枠にはとらわれないカリキュラムを編成。
- ④少人数制（最大20名）クラスで、アットホームな学習環境のもとで学ぶことができる。

(3) 指導方針

- ①学問の原点に戻り、勉強することが面白くかつ有益であることを説く。
- ②「主体的な学び」の中で、学問の本質的理解につながる高度な指導を行う。

<英語の授業の特長>

英語の教材はテキストだけではなく、オリジナル教材も用意。
英語4技能に対応して、ヒアリング、スピーキング、プレゼンテーション等も学ぶ。
Ex. CNNニュースヒアリング、スティーブ・ジョブズの伝説のスピーチなど。

全日本高校模擬国連大会

(1) 概要

2007年から始まり、大会で選出された高校生は、NYの国連本会議場の世界大会に出場できる。

大会の目的は、

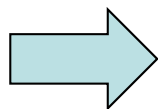
- ①国際連合及び国際関係に関する研究と、国際問題の正確な理解またはその解決策の探求を促進すること。
- ②豊かな国際感覚と社会性を有し、未来の国際社会に指導的立場から大いに貢献できる人材を育成し輩出すること。

<これまでの議題例>

2011年：エネルギー安全保障、2012年：核軍縮、2013年：児童労働、
2014年：食料安全保障、2015年：移民政策、2016年：サイバー空間

(2) 「K-pro」の英語の授業で、生徒たちに実践させていること

- ①議題に関する文献（英語と日本語）を探して読み込む。
- ②高校の枠を超えて、大学の先生や専門家に直接取材し、教えを請う。
- ③高校の枠を超えて、議題に関する問題点や課題等を英語と日本語で討論させ、より議題について深く学ぶ。
- ④大会終了後も、研鑽を続ける。



現代社会の諸問題について、英語文献で調べることが出来るようになり視野が広がる。
自分の考えを構築し、英語でプレゼンできるようになる。真の国際人を目指す。

参考：主な英語資格・検定試験

	ケンブリッジ 英検	英検	GTEC CBT	GTEC For STUDENTS	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC /TOEIC S&W	
CEFR										
<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 熟達した 言語使用者 </div>	C2	CPE (200+)			8.5-9.0					
	C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	800	95-120	1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
<div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 自立した 言語使用者 </div>	B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	600-795	72-94	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
	B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	420-595	42-71	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
<div style="background-color: #ffcc00; color: black; padding: 5px; text-align: center;"> 基礎段階の 言語使用者 </div>	A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225	235-415		385-785 L&R 225~ S&W 160~
	A1	YLE Movers	3級-5級(790- 1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~
	Pre-A1	YLE Starters								

※英語4技能試験情報サイト (<http://4skills.eiken.or.jp/>) および各団体公表資料より作成（一部改変）。

※TOEFL Junior (TOEFL iBTの中高生版) は2016年12月で販売終了。

参考：主な英語資格・検定試験(出題内容・形式と評価基準)

試験名(実施団体)	出題形式	出題内容	評価基準
実用英語技能検定 (日本英語検定協会) 年間受験者数：約322万人 ★留学資格として利用の場合、合格証明書発行日より2年間	<聞く・読む・書く>【一次試験】ただし、2級～5級はライティングはなし(2016年度から2級にライティング導入) <話す>【二次試験】3級以上で面接方式	<話す> 社会性のあるトピックに関する質問に対して技能としての英語のみならず、受験者が日頃の生活や学習の中で身につけた知識をも活用して意見を述べ、その根拠を具体的な根拠を元に議論を展開することが求められる。カードに書かれた英文を読み、内容に関する質問を聞いたうえで、英語で意見を述べる。カードに書かれたイラスト等の非言語情報を整理・理解し、時系列や聞き手を意識しながら説明をする。	①1級から5級(7つの級)で合否による成績表示 ②(2015年度より)合否に加えて英検CSEスコア及び英検バンドも併記
TEAP (日本英語検定協会) 受験者数：約1万人 ★受験日から2年度間有効(受験した年度を含む)	<聞く・読む> 多肢選択(マークシート)方式 <話す> 1対1の面接方式 <書く> 記述 ※<聞く/読む>、<聞く/読む/書く>でも受験可能	アカデミックなトピックに対する4技能にわたる英語の運用能力を問うだけでなく、文章の構成や図表との関連を考えながら読み解いたり、受験者自身の知識を活用しながら論理的に意見を述べる・議論をする能力が求められる。表・グラフを読み、その説明を聞きながら、関連する質問に解答する。英文と表・グラフを読み、内容に関するテーマに関して解答を書く。表・グラフ等の非言語情報と英文から得られる情報を統合して理解し、その内容を要約したうえで自分の意見をまとめて書く。	①各技能別スコア(各技能別とも20-100点) ・読む 20～100点、聞く 20～100点、話す 20～100点、書く 20～100点 ②CEFRレベルによる成績表示
GTEC CBT (ベネッセコーポレーション) 年間受験者数：非公表 ★受験日から2年間有効	<聞く> クリック形式による選択式 <話す> 音声録音による発話式 <読む> クリック形式による選択式 <書く> キーボード入力による自由記述式	<聞く> 学生生活での会話や講義からの出題で、課題解決に必要な情報を「聞く力」を測定 <話す> 会話応答力から自分の意見を述べる力まで幅広く「話す力」を測定 <読む> サンプル問題学生生活で遭遇する情報や、講義内容などの出題で「読む力」を測定 <書く> バリエーション豊かな出題で多角的に「書く力」を測定※資料を読み取り意見を書くなど2技能統合型の出題あり	①トータルスコア 0～1400点 リーディング 0～350点 リスニング 0～350点 スピーキング 0～350点 ライティング 0～350点 ②独自のグレード(1～9)
TOEFL iBT (ETS) 年間受験者数：非公表 ★受験日から2年間有効	<聞く、読む> 多肢選択 <話す> コンピューターへ録音 <書く> コンピューターに文章を入力	テスト問題は全てアカデミックな内容。なおかつ大学で英語を用いて学業を行ううえで、学部・院生が頻繁に求められる言語使用タスクに基づいて問題作成。Speaking/Writingセクションでは、Integrated Taskという同時に複数の技能を測定する問題(インプットとアウトプットを同時に測定)出題	①総合スコア(0～120点)および各技能別スコア(各技能とも0～30点) ・読む 0～30点、聞く 0～30点、話す 0～30点、書く 0～30点 ・トータルスコア 0～120点
ケンブリッジ英検 (ケンブリッジ大学英語検定機構) 年間受験者数：全世界約250万人 ★生涯有効	<読む・書く> 選択&記述 <聞く> 選択&記述 <話す> 2対2の面接方式(面接官との応答だけでなく、受験者同士で議論し結論を導く課題など)	<読む> 短文と人に関する記述をマッチングさせる、長文を読み作者の考えなどさまざまな事柄に関して正しい選択肢を選ぶなど。 <書く> いくつかの情報を伝えるための短いメッセージを書く(35-45語程度)、物語か手紙のいずれかを選び約100語で書くなど。 <聞く> 短い会話や英文、さらに長めのモノローグ(一人が話す独白形式のもの)やインタビューを聞き、内容に合う選択肢を選ぶ、長めの会話に関する正誤を判断するなど <話す> 試験官の質疑応答、もう一人の受験者にある状況について説明したり、意見を交わす	合否、ケンブリッジ英検Scaleスコア、CEFRレベルの成績表示 ※KET(CEFR:A2)、PET(B1)、FCE(B2)など各レベルあり(左記はPETの場合)

出所：英語4技能試験情報サイト